

ユニバーサル デザイン 探検隊が行く

みんなで進めるユニバーサルデザイン探検隊事業 事例集



滋賀県

滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会

ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く

はじめに

そもそも

ユニバーサルデザインって？

ユニバーサルデザイン（Universal Design）を一言で説明すると、「すべての人のためのデザイン」ということになるかもしれません。

それは、**年齢や性別、体格、障害の有無、能力差、国籍、文化、言語などにかかわらず、できるだけ多くの人にわかりやすく、利用可能である**ように製品や建物（設備）、空間をデザインすることです。現実的には「すべての人」に合わせることは難しいかもしれませんが、でも、ユニバーサルデザインの考え方には、難しい場合には**それぞれの状況に応じた代わりの案を考える**など、目標に向けてより多くの人に参加し、より良いものにしていこうという**取組の過程そのものや、その姿勢**も重要なこととして位置づけられています。

滋賀が進める ユニバーサルデザイン

滋賀県では、これまでのバリアフリーの取組に加え、ユニバーサルデザインの考え方により、今まで以上に福祉のまちづくりを推進し、県民だれもが「住んで良かった、住み続けたい」と思えるような、まただれもに「住んでみたい」と思ってもらえるような滋賀県になるよう、行政・県民・事業者・民間団体が総ぐるみで取り組むという強い決意を込めて「**だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例**」が制定されました。

この条例に基づいて、県においてユニバーサルデザイン
するにあたっての基本的な考え方や方向性などを示した
インの考え方を取り入れ、事業を実施
総合的な取組方針として、
また、市町・県民・事業者・民間団体が、現状や課題、それぞれに期待される役割などについて、
県と共通の理解・認識を持ち、連携してユニバーサルデザインの推進に取り組んでいくためのガイド
ラインとして「**淡海ユニバーサルデザイン行動指針**」が策定されています。

淡海ユニバーサルデザイン 行動指針

滋賀県では、ユニバーサルデザインを県政推進の基本的な考え方のひとつとして位置づけ、基本目標を定め、この目標を達成するための姿勢・視点によって取組を進めています。

基本目標

すべての人が個人として互いに尊敬し合い、
等しく社会に参加し、家庭や地域社会でいきいきと
生活できるユニバーサルデザイン社会を
みんなで実現しよう

ユニバーサルデザインは、はじめから、すべての人が利用可能なように計画・実施するという考え方ですが、できあがってしまえばそれで終わりというものではありません。

例えば、建物や製品が完成したときはすばらしいものであっても、利用者のニーズの多様化や、時間の経過とともに使いにくく感じられることがあります。作られたものの機能を低下させないよう維持し、**一人でも多くの人のニーズに応えられるよう、常に改良し続ける**姿勢が重要です。

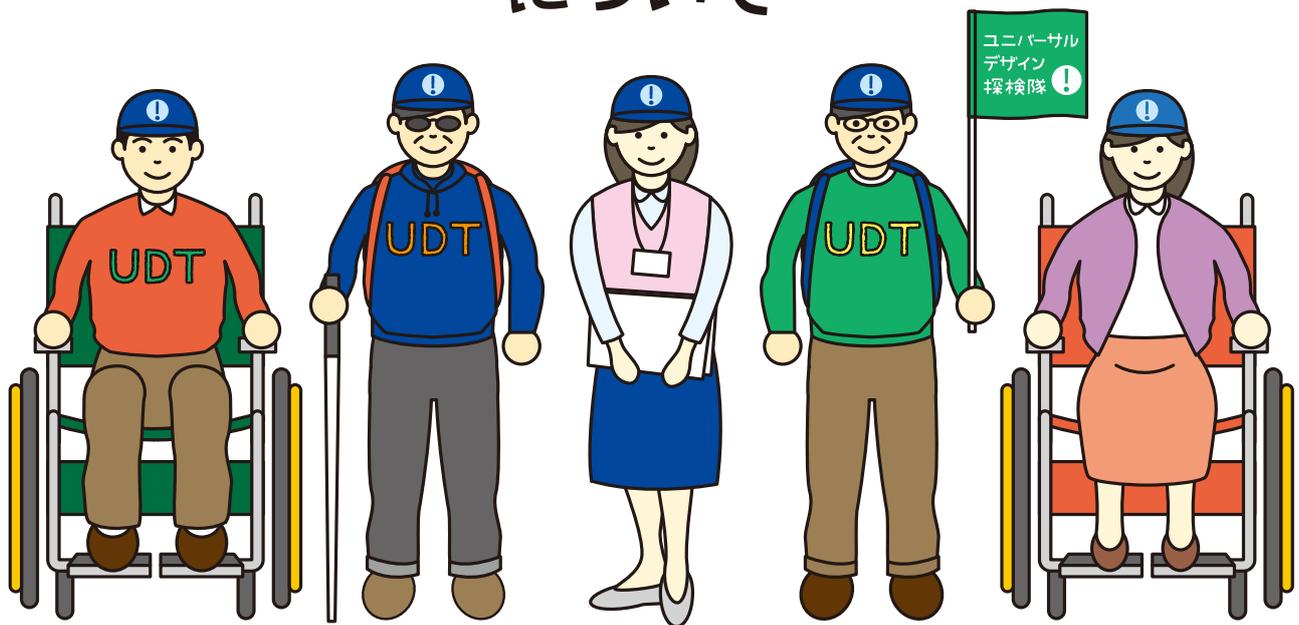
企画・立案【Plan】し、それを実行【Do】し、利用状況を点検・検証【Check】し、その結果により見直し・改善【Action】する。この一連のサイクルを継続していくことが大切です。



バリアフリーとは違うの？

「バリアフリー」は、障害のある人が生活をしていく上で、障壁（バリア）となるものを除去したり、**対処する**という考え方なのに対して、「ユニバーサルデザイン」はあらかじめ、**障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすい**ように、街や生活環境、製品や情報をデザインするという考え方です。共通するものはもちろん多いですが、ユニバーサルデザインのほうは、対象が広く多様で「すべての人のための」デザインであるというのが違いになります。

ユニバーサルデザイン探検隊 について



ユニバーサルデザイン探検隊は、年齢や性別などの違いを超えたメンバーによる活動です。今回は、滋賀県内の公共施設や活動現場を訪問して、多様な人々が利用しやすいデザインされているか、それがうまく利用されているか、良い点・悪い点だけでなく、改善策なども話し合いました。違いを超えた人たちが、施設の管理者やスタッフと建設的に話し合うことに大きな意義がありました。

ユニバーサルデザインの7原則

1. Equitable use 【公平性】 ———— 誰でも公平に使えること
2. Flexibility in use 【柔軟性】 ———— 柔軟に使用できること
3. Simple and intuitive 【単純性】 ———— シンプルで直感的にわかること
4. Perceptible information 【わかりやすさ】 必要な情報が簡単にわかること
5. Tolerance for error 【ミスの許容性】 うっかりミスが危険につながらないこと
6. Low physical effort 【省体力】 ———— 少ない力で楽に利用できること
7. Size and space for approach and use 【スペースの確保】 利用のための適当な広さ、大きさがあること

(ノースカロライナ州立大学のユニバーサルデザインセンターより)

ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く
Check the
「通路」



通路の幅

が広くとってあるので、
どんな利用者にとっても移動がし易いです。



トイレ前

のスペースも広く、
表示も見やすいです。



カーペットが
誘導代わりになるように
工夫されています。



ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く
Check the
「観覧席」



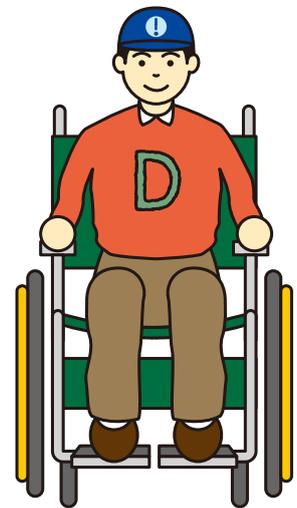
車椅子ユーザー席

手すりが目の高さにあるため、視界に入り観るのにひと苦労です。



安全面

とのバランスを
どのようにするか、



設計段階から利用される方の意見を
反映できるようにすることが大事だと思います。

ユーザーとともにデザインする

ユニバーサルデザインの7原則のひとつ、うっかりミスが危険につながらない「ミスの許容性」は、利用者の安全にとって大変重要なことですが、それによって利用者の本来の目的が損なわれては本末転倒ということにもなりかねません。作り手側の論理や想定だけでの一方通行なものづくりには限界があり、使い手の使いやすさや心地よさを満たすことは困難です。これからのものづくりは企画・設計・デザイン段階から、作り手と使い手が開かれた場で「意見交換と検証」を重ねて共につくっていくことが大切です。そのプロセスは簡単ではないかもしれませんが、お互いが対話と創造的な共同作業を楽しむことで、新たな価値を生み出すこともできると思います。

ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く
Check the
「サイン表示」



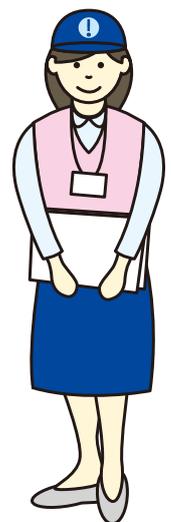
案内はわかりやすいことが基本となります。
大きい字ではっきりと
また館内が明るいことも大事なポイントです。



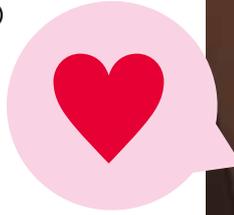
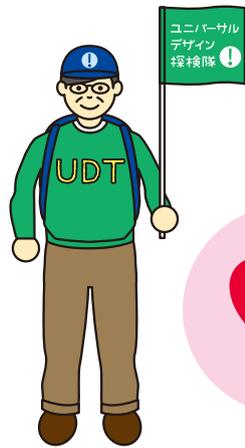
点字と平面図の両方であらわした点字版。
視覚障害の**あるないに関わらず、**
館内図がわかるようになっています。



自動販売機の点字案内。
点字ボランティアの
アイデアにより作成されました。



ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く
Check the
「エレベーター」

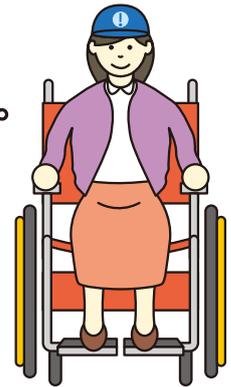
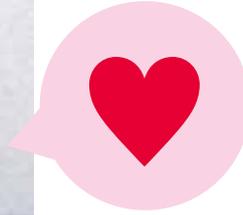


扉が**透明**になっていることで
中の状況がすぐにはわかり、
止まってしまうなどの事故にもすぐに対応できます。



低い位置にボタンがあることで、

車椅子利用者や
子どもの手にも届きます。



“8 or 80” 8歳でも80歳でも

ユニバーサルデザインで最も重要なことは、多様なユーザー（使い手）の想定です。そのなかでも誰もが平等に経験するのが「加齢」です。私たちは年齢を重ねることによって心身ともに変化しますが、自分の年齢で生きていく中では他人の年齢を客観視することに慣れていません。また時として、自分の加齢に気付かなかつたり、否認したりすることもあります。高齢者を想定するときは、こうした誰もが持ちうる気持ちも念頭に「加齢」を理解することが大切です。

加齢にともなう主な特性

① 感覚能力の変化

- ・聞こえにくい
- ・話しにくい
- ・見えにくい
- ・感じにくい

② 移動や運動能力の低下

- ・歩きにくい
- ・座りにくく立ちにくい
- ・早く反応できない

③ 平衡感覚の喪失と転倒

- ・倒れやすい
- ・バランスを失いやすい

④ 記憶と混乱

- ・覚えにくく忘れやすい
- ・混乱しやすい

ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く
Check the
「トイレ」

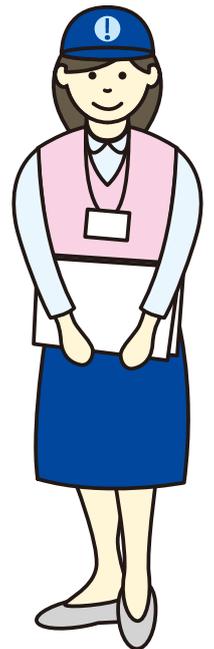
流すボタン^{の位置}

利用者によっては遠くて届かないかも。
また便座後方のレバーは使いにくい。



流すレバー^が

理想的な位置にあり、
さらに明示されていて、
わかりやすく使いやすいもの
になっています。



多目的トイレ^の

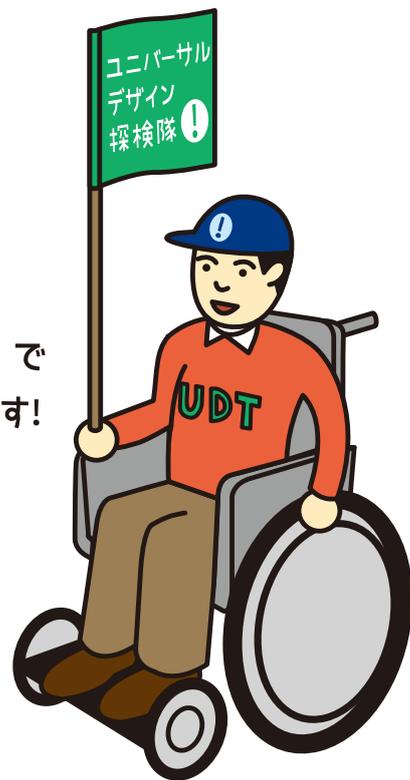
はずなのに車いす利用者にとっては
スペースも狭く、手洗い場の高さ
が高いので、簡単に手を洗うことが
できません。



幅や高さともに

理想的で

とても使いやすいです!



ドアの軽さも

大事なポイントです。

子どもや女性、高齢者の方にとって、重いドアの開閉はとても大変です。

デザインの限界と想像力の大事さ

人間が考えつくり出すものに「完璧」なものはなく、すべてのデザインには限界があるという認識を持つことは大切だと思います。世界のすべての人々にとって、心地よく使いやすい完全なデザイン（ユニバーサルデザイン）の達成というのは、現実的には少し無理のある論理だとも言えます。ですが、これからつくるものは、できる限り多様な使い手を想定した柔軟なデザインを追求し、今あるモノや施設は、より多様な人々にとって使いやすいものにする工夫を施したり、改良していくことがユニバーサルデザインとして最も大切なことだと思います。

ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く
Check the
「控え室」



落ち着かない時に
静養室
があると安心です!



疲れた時や、パニックになった時に

リラックス

できる場所があると安心です!

この部屋はスヌーズレンルーム[※]といいます。

環境が変わるとパニックになりがちな知的障害や発達障害のお子さん、またその支援者も一緒に安らげる空間として作られています。



※
スヌーズレン ルーム

障害が重い人たちでも楽しめるように、光、音、におい、振動、温度、触覚の素材などを組み合わせた、感覚を重視した部屋。障害のある人のみならず、その傍らにいる、介助者にとっても心地いい空間。

スヌーズレンは、治療法でも、教育法でもなく、パートナーは治療効果や発達支援を一方向的に求めることはせず、障がいのある人の楽しみ方をありのままに受け入れ、同じ感覚を経験し、互いの感じ方や喜びを共有します。

控え室に **低くて大きい** ソファがあると、服やユニフォームを広げることができるだけでなく、車いす利用者が車いすから降りて休むこともできます。



さまざまな障害を想定しよう

ユニバーサルデザインで最も重要なことは、多様なユーザー（使い手）の想定です。そのなかでも「障害」は実に多様で、対外的に見える障害から見えにくい障害、また一時的なもの、加齢によるもの、恒久的なもの、先天的なものといったように、障害の性質とともに当事者への表れ方もさまざまです。また、健康な人でも疲れたり、悩みがあったり、けがや病気をしていたり、妊娠していたりすれば一時的に障害が生じることもあります。

特定の障害が生じてしまう主な原因は、当人の問題ではなく当人をめぐる環境や設備、サービスなどの社会的な環境とそのデザインや計画に関する問題によるものが多くみられます。障害の数多くの種類と程度があることを知る手引きとなるのが、障害の認定ですが、この認定の表現は国によっても違い、その国際基準化は難しく、長らく検討課題となっています。

ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く
えにし
滋賀の縁認証
の取組み



縁認証団体の紹介

滋賀県と滋賀の縁創造実践センター 滋賀県社会福祉協議会は 2020 年 3 月現在、縁認証団体として、20 団体を認証、18 団体を奨励しています。ユニバーサルデザイン探検隊は今回、滋賀の福祉実践モデルとして認証された「もの忘れカフェ・仕事の場」と「移動商店街 ぎょうれつ本舗」2つの活動現場を訪ねました。

認証団体の活動①

もの忘れカフェ・仕事の場

進行を遅くすることができても、治ることなく進行し続ける「認知症」
「大事なことは、しっかり向き合うこと。そして、生活しやすくするため、方法とともに考えたり、支えていくことが大事。」と、連携型認知症疾患医療センター 藤本クリニックの藤本理事長は言われます。

クリニック開院後、最初に取り組んだのが若年認知症の人たちのデイサービスでした。はじめは、参加者全員が同じプログラムを実施していましたが、満足がない様子であったため、参加者同士が自分たちでやりたいことを話し合い、実行していくやり方に変えていきました。これが、2004 年からスタートして現在も継続している「もの忘れカフェ」です。



また、2011 年からスタートしたのが、「仕事の場」です。一般就労の難しくなった人の、「働きたい、社会の役に立ちたい」という思いを実現するために、開設されました。この場には、障害のある人や社会に出づらくなっている若者も参加し、スタッフも一緒に作業をしています。「仕事の場」の取組みは、若年認知症の立場に立ち、特性を理解したうえでの配慮があり、心のバリアをつくらない、ユニバーサルデザインの考え方に通じる実践です。

えにし 滋賀の縁認証って何？

滋賀の縁認証とは、滋賀の縁創造実践センターがめざす「**現行の制度で解決できない生活課題・地域の福祉課題に気づいた人たちが、実践者として、問題解決のために協働して具体的な取り組みをしている活動**」を、滋賀の福祉実践モデルとして滋賀県と、滋賀の縁創造実践センター 滋賀県社会福祉協議会の2者が認証するものです。

認証団体の活動②

移動商店街 **ぎょうれつ本舗**

山間集落等の**高齢者の買物支援**と、**障害のある人の仕事の創出**を目的に、法人職員と利用者が移動販売車で、パン、惣菜、日用品等を販売する活動です。（※）

高 齢者支援と、障害のある人の就労機会確保の2つの課題の解決に向けた取り組みです。

買い物の機会とコミュニティの場を提供し、地域の皆様から喜ばれるだけでなく、障害のある人たちが地域の中で働く機会を得て自信が持てるようになり、働く意欲が高まります。

「援助する側」と「援助される側」といっ

た**固定的、一方通行的な考え方**でなく、**それぞれが自己の可能性を活かし、社会参加していく**というユニバーサルデザインの考え方に通じる実践です。



※ 移動販売は 2019 年度で終了し、2020 年度からは生活支援サービスと健康プログラムの提供が行われます。

ユニバーサル
デザイン
探検隊が行く

チェックリスト



あなたも探検してみませんか？

今回、ユニバーサルデザイン探検隊が県内の公共の施設などを訪ねて、良い点や気付いたこと等をチェックし、改善策などを話し合いましたが、あなたも是非、お近くの施設等をユニバーサルデザインの観点から検証してみてください。「多様な人々が利用しやすいようにデザインされているか」を想像しながら対象物を見て、考えることはあなた自身にとっても、また社会全体にとってもたいへん有意義なことです。

下のチェックリストを参考に検証してみてください

	検証項目		
公平性	どのような人でも、できるだけ同じように使えますか？		
	どのような人でも、不安や差別を感じることなく使えますか？		
柔軟性	使い方を自由に選べますか？		
	右利きの人にも左利きの人にも使いやすいですか？		
単純性	どのような人でも、直感的に正しく使えますか？		
	使い手に誤解を招くような複雑さはありませんか？		
わかりやすさ	使い方や表示が、簡単で理解しやすいですか？		
	使い手に必要な情報が分かり易くなっていますか？		
ミスの許容性	使う上で、誤操作が重大な危険につながらないようになっていますか？		
	操作に失敗しても、簡単にやり直せるようになっていますか？		
省体力	使い手に過剰な負担がかからないようになっていますか？		
	どのような人でも、無理のない姿勢で使えるようになっていますか？		
スペースの確保	どのような人でも、使いやすい広さや大きさになっていますか？		
	介助する人がそばにいても使えるようなスペースになっていますか？		

みんなで進めるユニバーサルデザイン探検隊事業 概要

- 1 目的
本県では、「だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例」、「淡海ユニバーサルデザイン行動計画」を策定し、その取り組みを進めてきた。今後、この取り組みを一層進めるため、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を見て助け合うことが求められている。このため、移動支援が必要な人たちが施設等を訪問し、好事例等を収集するほか、さらなる利用のしやすさについて施設関係者と意見交換や提案を行い、当事者の視点を取り入れた取り組みを進め、共生社会づくりを進める。
- 2 主催
滋賀県 滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
- 3 協力
滋賀県自閉症協会
特定非営利活動法人 滋賀県脊髄損傷者協会
社会福祉法人 滋賀県聴覚障害者福祉協会
社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会
- 4 実施日・訪問先
＜ルート1＞ 令和元年12月20日（金）
（社福）虹の会⇒草津市総合体育館⇒YMIT アリーナ⇒水のみぐみアクア琵琶
＜ルート2＞ 令和元年12月25日（水）
野洲市総合体育館⇒なかよし交流館⇒ライズヴィル都賀山
＜ルート3＞ 令和元年12月24日（火）
（特非）もの忘れカフェの仲間たち「仕事の場」



UNIVERSAL DESIGN TANKENTAI

ユニバーサルデザイン探検隊が行く みんなで進めるユニバーサルデザイン探検隊事業 事例集

令和2年(2020年)3月発行

発行 滋賀県

滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会
滋賀県草津市笠山七丁目8-138 TEL:077-567-3924 FAX:077-567-5160